

## 新年のご挨拶

新春を迎え、読者の皆様におかれましては益々ご清祥のことと心よりお慶び申し上げます。また平素のご厚情に深謝いたします。

『モダンメディア』は医学、公衆衛生に関する学術情報誌として1955年8月に創刊して以来、臨床検査に関わる話題や最新情報をさまざまな視点からご提供させていただいて参りました。

2024年4月より新たな編集体制となり、読者アンケートを参考にコンテンツを見直し、「話題の感染症(動物の感染症)」、「社会における感染症」、「医学教育の今!」等の新しい切り口を加え、更に昨年より腸内細菌叢の中のミニシリーズ「入門から臨床まで」、「原因微生物の推定・同定のための検査法」をシリーズ化するなど最新情報のご提供に努めております。

今後、更に内容の充実を図って参りたいと存じますので、引き続きご愛読賜りますようお願い申し上げます。



栄研化学株式会社

代表執行役社長

瀬川 雄 司

昨年、世界的に政情不安定な要素が散発し、資源価格の高騰や地政学的リスク、米国の通商政策や主要国の金融政策、円安による物流及び原材料調達コストの上昇傾向が継続しており、臨床検査業界においても経営環境の厳しさを増し、コスト競争力の強化と戦略的な海外市場への展開が求められております。

このような経営環境の下、当社グループは新中期経営計画で「Challenges to Innovation」をスローガンに掲げ、「がんの予防・治療への貢献」、「感染症撲滅・感染制御への貢献」、「ヘルスケアに役立つ製品・サービスの提供」の3点に注力を中心に重点施策を展開するとともに、世界中の人々の健康を守る企業として「医療」の課題、そして「環境」・「社会」・「ガバナンス」の課題にも積極的に取り組み、さらなる企業価値の向上と持続可能な社会の実現を目指しております。

さて、本誌恒例となりました新春放談2026年は、さまざまな場面、学会等で注目され、社会的な関心や話題性が特に高い「AI」に注目し、「検査・診断領域におけるAIの現状と未来」をテーマに取り上げさせていただきました。

AIの活用は診療プロセス全体を変革し得る可能性を秘めておりますが、とりわけ検査診断領域での進歩はめざましく、血液像や病理画像の自動解析、放射線画像診断支援、微生物検査やゲノムデータ解析など、多岐にわたる分野で実用化が始まっています。その一方で、データの質と量、アルゴリズムの信頼性、倫理面への配慮、医療従事者の負担軽減と役割のバランス等議論すべき課題も残されています。

本座談会では、検査診断に携わる専門家にAIの現状と未来について多角的に議論いただきました。語り手としまして、「医療の総論」を奥 真也先生(東京科学大学 医療・創薬イノベーション教育開発機構 特任教授)に、「検査領域」を柳原 克紀先生(長崎大学 医歯薬学総合研究科 病態解析・診断学分野 教授)に、「病理領域」を石川 俊平先生(東京大学大学院医学系研究科 衛生学分野 教授)に、「一般検体 検査領域」を下澤 達雄先生(国際医療福祉大学大学院医学研究科 臨床検査医学 主任教授)にお願いし、聞き手として、本誌編集委員の堤 武也先生(東京大学大学院医学系研究科 病因・病理学専攻感染制御学分野 内科学専攻生体防御感染症学分野 教授)と大西 宏明先生(杏林大学医学部 臨床検査医学 教室 教授)にご担当いただき、幅広くご討論していただいております。是非ご一読ください。

本年も、より一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2026年1月吉日